

中央アルプス駒ヶ根ロゲイン 2009 年 6 月 14 日 長野県駒ヶ根市

ロゲインシリーズ2009の第2戦は駒ヶ根高原。オリエンタリングで数々の大舞台を提供したテレインをロゲインで攻略する。

2009 年 6 月 14 日 長野県駒ヶ根市
中央アルプス駒ヶ根ロゲイン



精鋭、阿闍梨チーム

ゆるゆる阿闍梨合宿

ロゲイニングの達人集団を自負するTEAM 阿闍梨では、駒ヶ根ロゲイニングにも精鋭集団を送り込んだ。帝王柳下はいないものの、女帝こと田島利佳とロゲイニングの上皇こと村越は、「チーム戦こそロゲイニング」をアピールすべく、混合組にエントリー。主催者木村をして「混合組の中ではポテンシャルは圧倒的」と評させた。さらには御年五十うん歳の杉山隆司、伊藤奈緒、宮林勝ら、5人が参加した。

当初は、前日から山に入る合宿を計画したが、忙しい御大2名が日とったため、観光とペンションですぐゆるゆる合宿となった。

村越が若かりしころ、この駒ヶ根にはインカレ運営のため何度も通った。その時常宿だったのが、駒ヶ根ユース。ペアレントをしていた近藤夫妻には多大なお世話になった。特に奥様淳子さんには、夕食直前に「淳子さん、済みません、夕食もう一つ増やしてください！」なんてわがままも聞いてもらった。その後彼らは駒ヶ根でペンションを営んでいると聞いていたので、そこに泊まることにした。

淳子さんは、僕を見るなり、「村越さん、相変わらずスリムですね」というが、淳子さんも相変わらずかわいい。25年前の貧乏学生とペアレントが、今はペンションのオーナーと値段より安

らぎを求める中年のおじさん。大きな違いはあったけれど、駒ヶ根で過ごす楽しさは変わらなかった。



25年前と変わらずかわいい近藤淳子さん

残り30分がエキサイティング

混合に出る以上、女性のパフォーマンスを最大限に引き出す準備と戦術が鍵を握る。二人分約2.5Lの水と軽い行動食は全て僕が持ち、利佳ちゃんは空身。ルールに抵触しない程度に利佳ちゃんにはショートカットをさせる。登りでは押す。

急峻だが、森には入らない池山エリアと0-mapによる裾野エリアに別れていることは分かっていた。点数配分によって、どちらを優先するかが変わる。スタート20分前に地図を受け取ると、まずブロックごとに合計点数を出す。

配点を見ると池山上部が約380、下部が340。合わせて約800弱だ。一方、裾野エリアは最南部が520、中央が450点、そして、両者の接点である北部エリアが約240点である。池山エリア、裾野エリアともに90-100分か。3時間ロゲイニングなら、どちらかのエリアは完全に回れ、他方の取り方勝負になる。この時点で、裾野エリアを全部網羅し、時間を見て池山を上がるという基本戦略が立つ。池山エリアは上も下もほぼ同様の配点だが、裾野エリアは南部の配点が高いからだ。テレインに幅のない今回のロゲイニングは、基本が決まると後の周り方は簡単に決まる。

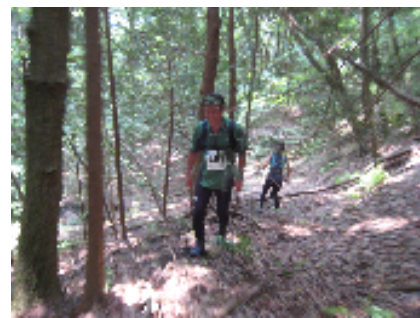
接点となる北エリアの60あたりまでで90分だろう。池山も登って下るだけなので、時間の読みも簡単だ。下りはほぼ6min/km。それを考えながら残り時間が距離×6minになる場所まで登っていくことができるので、ほとんどリスクのない作戦がとれる。

30分、60分のところでチェックを入

れる。ほぼ予想通りのペースで回っている。41のスキー場で残り50分。ここから63までは辛い登りだが、同時に標高に対するスピードを読める部分でもある。ペースが落ちたので、地図の先読みをする余裕がある。最後に80>34>45ととって帰ると「古い道標」からフィニッシュまで約3km。ここを20分とみれば、十分だろう。林道に出た地点での行動可能時間も簡単に分かる。うまくいけば74と104の両方が、多分どちらか一方だけがとれる。刻々と減る時間を見ながら臨機応変にルートを変化させていく。数時間のハードワークの末に与えられるロゲイニングの醍醐味とも言える。

林道に出た時、残り35分。下の林道に下る3分と20分をひくと12分。74と両方は無理だが、74より得点の高い約1km先の102がねえ。行きは7分かかったが、当然やや下りの帰りはもう少し早い。その後の林道も下りになったせいで利佳ちゃんのペースもあがり、「古い道標」では、残り23分だった。結果は約6分の残りだった。

もう少しフィニッシュ周辺に得点の高いポイントがあれば、より参加者に高いレベルの戦術を要求できたと考えると、ちと惜しい。



▲テレイン南部でタック杉山と遭遇。
右はさっさと下っていく田島。

(村越 真)